第１６回
菊川水系流域委員会
資料－１

第１５回菊川水系流域委員会（令和７年１２月２４日開催）での指摘事項とその対応

令和８年１１月１８日

国土交通省 中部地方整備局
浜松河川国道事務所

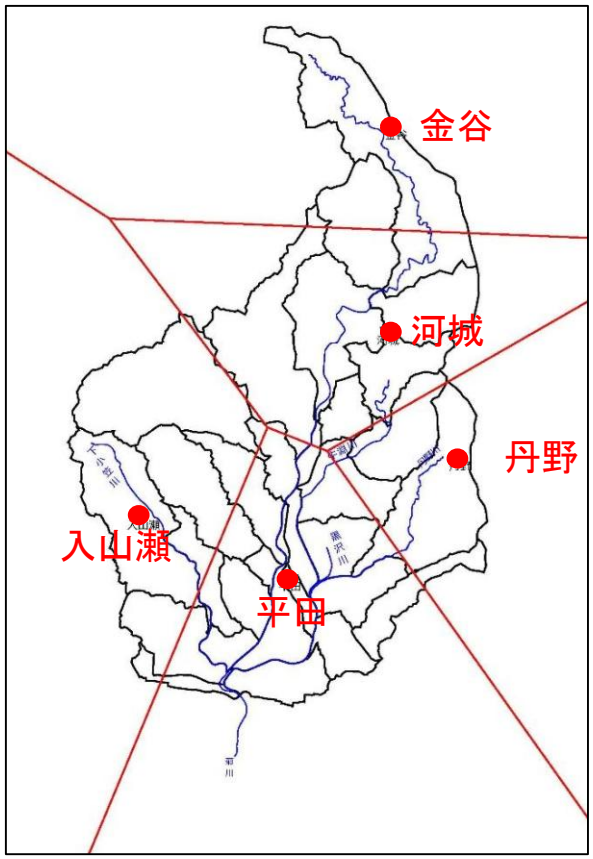
（1）第１５回菊川水系流域委員会　指摘対応表

No.	項目	発言者	意見・指摘事項	回答	対応
1	菊川水系河川整備計画の進捗状況と点検	末次委員長	河川整備計画の主な整備の実施内容について、令和7年度の河川整備実施箇所はどこか。	菊川の高潮堤防を整備しており、今年度完了予定である。また、菊川5.6k上流において引き続き低水路拡幅を実施中である。下小笠川においても護岸整備を実施中である。令和7年度末時点では、高潮堤防の整備率が100%、河道掘削も整備率が上がる予定である。	回答済み
2		溝口委員	菊川は中流部の流下能力が不足している。当面の整備予定はどうなっているか。	当面5か年は、菊川中流部の流下能力不足箇所の整備を継続する予定である。その後、菊川上流部の河道掘削を実施する予定である。	回答済み
3		秋山委員	動植物の保全・創出・再生について、現在、具体的に実施していることはあるか。	現在、礫河原の創出など、自然再生に関する事業は実施していない。令和7年12月に河川整備基本方針が変更されたため、今後、河川整備計画についても変更を予定しており、その際、具体的な環境定量目標を作成する予定である。	回答済み
4		秋山委員	計画作成の際には、現状の生物の保全だけでなく、外来種の積極的な駆除等も考慮いただきたい。漁業協同組合と連携してやっていくことも考えられる。	菊川水系では漁業協同組合はないが、環境に関するアドバイザーからは、菊川は、シロウオの生息区域になっており、保全ができるとよいとアドバイスいただいている。アドバイザーや、河川環境保全モニターからの意見を踏まえ、検討していきたい。	回答済み
5		渋澤委員	過去の災害について、令和4年ごろまで被害が確認されているようであるが、令和5年以降は、河川整備による被害軽減効果がみられるということでよいか。	今年度も菊川の加茂地点、牛淵川の横地地点で氾濫危険水位を超過したが、結果的に氾濫被害は発生しなかった。整備効果は現れているが、まだ整備途中であるため、危険性が減っているわけではないと認識している。	回答済み
6		末次委員長	近年、50mm/hr以上の雨などは増えているのか。	後日確認して報告する。	次ページにて整理
7		絹村委員（当日欠席）	国土強靭化の予算を活用しながら、整備を進めて、地域の方が安全に暮らせるようにしてほしい。また、農業ため池や水田を活用した、流域治水の取り組みをしっかり連携して進めていただきたい。あわせて、利水にも協力してもらいながら、行政も地域もWin-Winの関係になれるように、連携して進めてほしい。	－	－

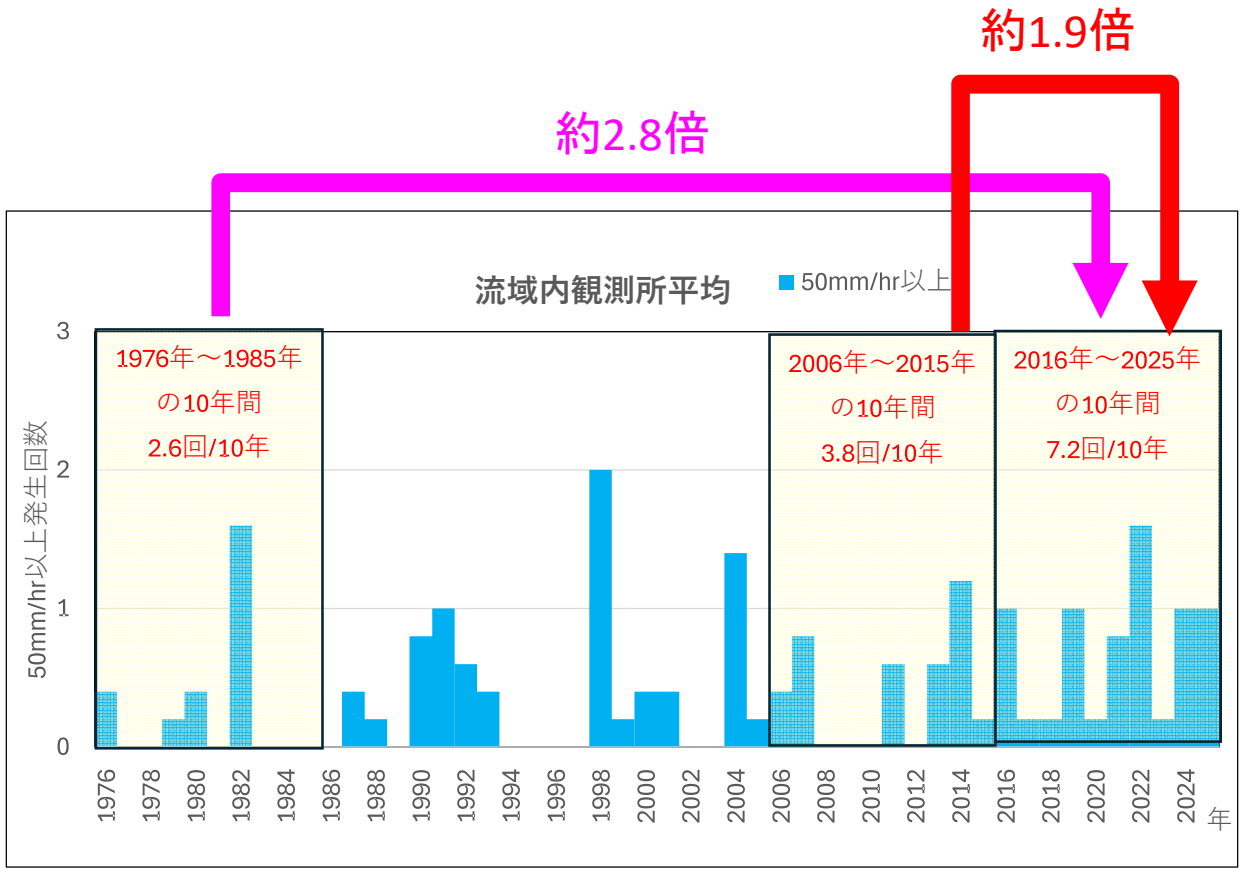
（1）第15回菊川水系流域委員会　指摘対応表

No6　降雨量について

- 近年、50㎜/hr以上の雨などは増えているのか確認するため、流域内観測所の50㎜/hr以上の発生回数を整理した。
- 2016年～2025までの10年間の発生回数は7.2回となっており、2006～2015年までの10年間に対し1.9倍、 1976～1985年までの10年間に対し2.8倍となっており、50㎜/hr以上の発生回数が多くなっている状況であった。



菊川流域の観測所位置図



流域内観測所での50㎜/hr以上の発生回数

（1）第15回菊川水系流域委員会　指摘対応表

No6　降雨量について

- 観測所別にみると、 2016～2025年までの10年間と2006～2015年までの10年間について、すべての観測所で50㎜/hr以上の発生回数が増加しているが、特に河城で4.00倍、入山瀬で2.67倍と中流部で増加傾向となっている。
- また流域北部の金谷、河城では、80㎜/hr以上の降雨も発生している状況であった。

雨量観測所毎の時間降雨の発生回数

	2006～2015年			2016～2025年		
	50㎜/hr以上	80㎜/hr以上	100㎜/hr以上	50㎜/hr以上	80㎜/hr以上	100㎜/hr以上
金谷	6	0	0	8（1.33倍）	1	1
河城	2	0	0	8（4.00倍）	1	0
丹野	4	0	0	5（1.25倍）	0	0
平田	4	0	0	7（1.75倍）	0	0
入山瀬	3	0	0	8（2.67倍）	0	0

